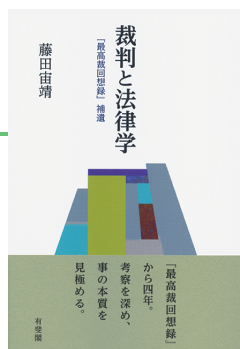


裁判と法律学

——『最高裁回想録』補遺

藤田宙靖

2016年7月発売 / 354頁 / 本体3300円+税

編集
担当者
から

著者は行政法学の泰斗で、2002年9月から2010年4月まで最高裁判事を務めました。本書は、最高裁での経験を回想した前著『最高裁回想録——学者判事の七年半』（有斐閣、2012年）の内容を敷衍し補足をを行うもので、裁判とは何か、裁判実務にとっての法解釈学の意義といったことについて考察を深め、その本質を見極めます。前著では触れられていなかった、行政法分野で最も重要な問題の一つである自由裁量論についても、裁判実務に携わって見えたことを考察し、理論的掘り下げを行っています。

全体で一つのストーリーを成していた前著と異なり、本書は一篇一篇が独立した講演の形をとっています。前著よりは専門的な内容ですが、正確に理解されるよう一言一句にまで意を用いて練り上げられた文章に、実際に講演を聴いているかのような臨場感をもって読み進められることと思います。本誌の読者のみなさまにはぜひとも手に取っていただきたい一冊です。(Z)

Index

I

本誌好評企画「藤田宙靖先生と最高裁判所」（400～402号掲載）を第二部に再録。

【本書目次】

第一部 裁判と法律学

第一章 最高裁判所と判例

I 「裁判」とは何か？

——最高裁の場合を中心として

II 最高裁判例とは何か

第二章 裁判と法解釈学

III 法解釈学説と最高裁の判断形成

IV 「裁判と法解釈学」再論

——小田中聰樹氏からの批判を手掛かりとして

第三章 司法（裁判）の使命と役割

V 司法の使命と役割・学説の使命と役割

VI 自由裁量処分と司法審査

VII 自由裁量論の諸相

——裁量処分の司法審査を巡って

VIII 「一票の較差訴訟」に関する覚え書き

——選挙無効判決の効果について

第二部 藤田宙靖先生と最高裁判所

〔聞き手〕 日本大学教授 蟻川恒正

神戸大学教授 中川丈久

【参考】

『最高裁回想録——学者判事の七年半』目次

第一章 最高裁判事就任まで

第二章 執務

第三章 関与した事件から

第一節 概説 / 第二節 行政事件と近時の最高裁（その一）——行政事件の重要性 / 第三節 行政事件と近時の最高裁（その二）

——司法制度改革との関係 / 第四節 行政事件と近時の最高裁（その三）——その他の事件から / 第五節 憲法事件と近時の最高裁（その一）——変化の胎動 / 第六節 憲法事件と近時の最高裁（その二）——最高裁は保守的（conservative）か？ / 第七節 刑事事件と近時の最高裁

第四章 学者と裁判官の間で

第一節 「学問」と「実務」 / 第二節 「判例拘束性」、「説明責任」等々

第五章 裁判以外の公務

第一節 司法行政 / 第二節 出張 / 第三節 判例委員会 / 第四節 長官代行への就任 / 第五節 官中との関係

終章 退官